

# みくびだより



## 御挨拶

謹啓 師走の侯、皆様方におかれましては愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

御即位十年の節目に当る本年、去る九月十日に天皇・皇后両陛下を始め皇族の方々々が皇霊殿に御参集なされ「仁賢天皇千五百年祭」を斎行されました御事、心よりお慶び申し上げます。

さて、政治・経済を始め金融情勢が混迷をきたし暗礁に乗り上げている最中、東北地方には深刻な水災害、又和歌山のカレー毒物混入事件等、世間に暗雲立ちこめるニュースが飛び交い、更に九月二十一日より二十二日未明にかけて、台風八号・七号が相次いで我が国に襲来し、四国・近畿地方を始め中部・北陸・東北地方等に猛威を振るい、多くの尊い人命や河川の氾濫による家屋の損壊・床上床下浸水・農作物の被害、又山崩れ等による多大な被害をもたらしました。

当神社に於きましても稻荷神社（境内社）の灯籠や境内地の大木、十数本が横倒・倒損致しましたが、皆様方の敬神の念により益々御神徳が高揚されました御首の大神様の御神慮のお陰により、幸いにも社殿並びに建造物には被害はございませんでした。今更ながら御神徳の威大さを痛感させられる思いであります。

尚、今回の台風により、被害に遭われました崇敬者の皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。

最後に、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受されまして愈々の御健勝と御多幸を心より祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

## 『生そして死』

人間は死んだらどうなるのか？ この問題は常日頃の生活から離れて静かに考えて見るとき誰もが不安にかられる筈であります。死後の世界は何人たりとも見ることを許されておりません。古来の有名な哲人や大宗教家を取り組み、究明に心血を注いで来ましたが容易には解決のつかない永遠の謎となつていて問題であります。しかし我々は刻一刻と死の淵に近づいてゆき、深い沼の中に吸い込まれてしまわなければなりません。未知の世界が我々の往く先に待っているのです。

世の中では生の問題に思い悩み、この世の苦しみから逃れる為に死の道を選ぶ人が多くあります。死が永遠の静寂であり、苦樂を超越した世界であるという想像をして身を任せたのでしよう。ある人は死の彼岸には善悪の裁きが有ると信じ、この世で善を為



した者が死後正しい裁きによって永遠の楽しみを与えられこの世で悪を為した者が死の向うで裁かれ、苦しみを受けるのだと信じ、或いは罪におののき未来にふるえ、彼岸の樂土を乞い願っています。死の向う側は見ることでできない世界であり、人間の誰もが体験でもつては知ることの出来ない世界であります。それ故に死後の世界はいろいろな想像され、様々な期待でもつて飾られているいわば想像の宝庫であります。

我が国には神道・仏教の他に何百何千という宗教が入り込んでおります。その個々の宗教は何らかの意味で死に関する解釈をもつております。その中でも仏教は最も多く死の問題を取り上げ、死の不安からその信仰を導こうとしています。

では神道で死はどのような解釈をもっているのでしょうか。神道の信仰は今までも述べましたように死の問題から生まれた信仰は無いのです。

神道は「生」のうちに大きな喜びがあり、生きることを通して神々の理想が達成されつつあることを感謝し、神々の理想に感激して生活を築き上げてゆく信仰でありますので、全ての問題は「生」の中に得られる喜びによって解決されるのであります。

元来人間は神の祝福を受け、この世に生を受け神と共に協調し、破滅を建設に、暗を光に、貧を富に、死を生に、混乱を株序に変える前進的指向をもつて努力精進して現在が有るわけですが、人間は命のある限り悩みとか苦しみは必然的に発生するものであります。悩みや苦しみに打ち勝つてこそ人間の価値があり、その努力が進歩発展の原動力となるのです。悩みとか苦しみは全て「まがつび」の為す惑わしであり「まが心」であります。

神道の神話で「死」は万物を産み給うた「いざなみ」の神が怒りに触れた時に起こった「まがごと」であると伝えてあります。生を求め死を厭うことは万物に具わる自然の理法であります。

私たちは「生」に悩んだからといってそれを死の中に解決をもとめてはなりません。

人生の行きづまりから自殺の手段を選んだ人が沢山ありますが、死は絶対にその解決の保証をしてはくれません。このような不確実なことを確実だと思ひこむことは健全なる「たましい」から発した「まこと」の行為ではありません。安易に死の道を選ぶ人は神から戴いた生命力や、祖先から伝えられて来た生活の手段習慣、或いは文化の成果に対する裏切り行為であり反逆であります。人生に悩みや疑問があるならば生きていく間にこれと正面から取り組み、どこ迄も戦い抜く精神を培わねばなりません。

人はしばしば此の世を穢れた世界、悪の世界として嫌い、死の彼方に美しい樂園があるかの如く憧れる事がありますが、健全な精神の持ち主、信仰心の旺盛な人にはそのような「まが心」の寄りつく隙を与えないでしょう。

我々が「まこと」を求め、神々の「めぐみ」に感謝する心を失わない限り、神々は善を恵み給わないということは無いのです。何故このように苦しいのか、神々は自分を見捨てておられるのだと言う不満と不信が既に「まがつび」の惑わしにかかっている証拠なのです。

信仰はいと小さい「恵み」にさへ感謝する心であり、その感謝の発見が人の心を変え、人格形成の基となる訳ですから、神々の恵みに対してあらゆる面に於いて感謝の念を忘れた人には「まがつび」が入り込んでくるのであります。

人間はこの世に生を受けた時点で確実に死と向かい会わねばなりません。向かい合う時間には色々個人差があるもので、百年以上向かい合う人もあれば極端な場合この世に生を受けて数時間で命を落とす人もあります。

限りある命、この大切な「命」を私たちは大切にし、神々の思召しのもとに最大限に活用させて頂き、天寿を全うして神のふところに戻ることのできるよう心がけたいものです。

\*日の本に生れ出でにし益人は神より出でて神に入るなり\*

禰宜上松 雅之

## ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言御案内申し上げます。

受付に掲示してあります、厄年の表(数え年)をご覧になり首を傾げられる参拝者を近頃よくお見かけいたします。と言いましてもほとんどが若い人ですが、いまひとつ数え年と満年齢の区別がご理解されていないように感じられます。この場にて簡単ではありますが数え年についてご説明申し上げます。

「数え年」とは新しい命が「歳神さま」のお恵みによって母親の胎内に宿り、十月十日をご加護頂くことによりこの世に生まれ出た時点では既に一歳となります。例えば十二月三十一日に生まれた新生児は年が明けると同時に二歳となる訳であります。

神道で云う新年とは、年ごとに神々の瑞々しい生命を戴く「歳神さま」を迎えることを意味しております。

若い人以外の方でも、厄年・七五三の御祈禱の折り、半数以上の方が申し込み書に満年齢を記入されますが、神社では数え年を使用致しまして御祈禱をするのが基本であります。しかし、昨今の社会で使用されているのは満年齢が大部分を占めており、数え年を使用しなくなつてゆくのは止むを得ないことかもしれません。しかし、神社或いは寺院等は日本古来の伝統を守り受け継ぐ立場でありますので、受付で

のお申し込みの際には数え年を使つて頂ければ幸いです1

権禰宜

谷口 哲也

	前厄	本厄	後厄
男	42歳 昭和33年	昭和32年	昭和31年
子	25歳 昭和50年	昭和49年	昭和48年
女	33歳 昭和42年	昭和41年	昭和40年
子	19歳 昭和56年	昭和55年	昭和54年

祭事報告

▼西宮神社例祭

七月十七日午後三時

▼末広稻荷神社例祭

八月一日午後三時

▼夏越大祓式

八月二日午後三時半

大祓式は、古く奈良時代、都において六月と十二月の晦日に、全国の官職等が参集し半年間の犯せる罪穢を祓う国家的儀式でした。

近年では、全国各地の神社においても、氏子崇敬者を対象に執り行われるようになり、知らず知らずに受け犯した罪・穢れを祓い清めるだけでなく災厄を逃れ幸福を得んとする神事となりました。清浄を重んずる神道では古来からの大切な年中行事の一つです。

当御首神社においても皆様が半年の間、身に受けた罪・穢れ・災い・厄を祓い浄めていただくため大祓式を厳粛に斎行致しました。

大祓式に続いて茅の輪くぐりの神事に移りまして、大麻で以て祓い浄めるお祓



い所役が先導いたし、官司以下祭員に続いて氏子・一般参列者が左側、右側と交互に三度くぐった後御神前に向かい臭つ直ぐ進み、最後に御神前に向かい二礼二一拍手・一礼の作法で御参りをして頂きました。

また、皆様が罪・穢れを託されました人形は、三方に高く積み上げられ、祓い浄められた後、祭員の手により忌み火にてお焚き上げ致しました。

真夏の炎天下にもかかわらず、多数のご参列本当に有り難うございます。御参加頂きました皆様の半年間の罪・穢れが祓い浄められ心身共に清々しく健康・長寿の御神徳をお受けになり、暑い夏を無事過ごされた事と思います。又、残り半年間の罪・穢れを祓い浄め皆様が一年間に受けられた御神徳への感謝と健勝の喜びを報告される良い機会となりますので、十二月に執り行われる年越大祓にも是非御参列ください。

尚社務所からのお願いですが、人形にお書き頂く際、お手数でも一体々住所・氏名・年齢をハッキリお書き下さいませ。

▼長寿祈願祭 九月十五日 午後三時

氏子区域の老人会の方々をお招きし、氏子崇敬者の長寿と健康を祈願致しました。

▼神明神社例祭 十月十七日 午後三時

▼七五三詣り 十一月一日〜三十日

▼崇敬会大祭 十一月三日 午後二時

▼新嘗祭 十一月二十三日 午後三時

権禰宜 馬場 典之

末広稻荷神社  
御鎮座五十年記念のお願い

当神社本殿の東にお祀りされています末広稻荷神社は、戦後まもない昭和二十六年にご鎮座になり、来る平成十二年には五十年目を迎えることとなります。

稻荷神社の本殿は昭和六十二年に御首神社の旧社殿を改築いたし、拝殿は新築いたしました。しかし鳥居や灯籠は当時対象外でありましたので、長年の間風雪に晒され老朽化も大変顕著になってまいりました。

社会情勢不安の折り恐縮とは存じますが、この五十年の佳き節目の記念に鳥居を始め灯籠など神域の整備や改修を行いたいと存じます。何卒趣旨をご理解頂きご奉賛賜りますようお願い申し上げます。



## 試験合格祈願 学業成就祈願について

神道での御祈祷の始まりは、古く平安時代後期より行なわれるようになったと記されています。当時は、貧困生活が続く疫病等が流行し、病氣平癒や厄祓いの祈願が中心に行われていたようです。

近代では、衣・食・住・貯蓄等或る程度満たされるようになりましたが病氣平癒・厄祓いは勿論のこと交通安全・家内安全・商売繁盛等多種多様の祈願が執り行なわれるようになりました。

当御首神社は平将門公の霊を慰めるため創建された神社であり、古くより首上の諸祈願に御霊験あらたかであると伝えられ、首上病氣平癒・学業・入試を始め健康・厄祓・交通安全・家内安全等の御祈祷を終日執り行っております。

学業成就祈願は、試験合格祈願と勉学向上祈願に大別されます。

試験合格祈願には、入園・入学試験・昇級試験・就職試験・資格取得試験等があります。学校や職場に於いてこのような試験を避けて通る事は至難の業であり、以前では想像もつかないような、高度の知識が必要となつてまいりました。

又、勉学向上祈願では、学業の向上・習い事などの向上を願います。例えば、ペン習字・そろばん・パソコン・簿記検定・ピアノ等の

楽器演奏・お茶・お花・日本舞踊に至るまで多岐多様に亘っています。

このように、その道に努力精進してゆく過程に於いて、大神様の御加護を戴きまして勉学に励み、試験に合格して目出度く入学、或いは資格を取得して頂けるよう祈願するものであります。

尚、ご遠方の人や止むを得ない事情があり参拝出来ないお方は、皆様に代わりまして御祈願致しますので、郵便にて社務所宛ご一報下さい。

権禰宜 高田 豊彦



## 崇敬会入会のご案内

### 入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ます。御参拝の折、社務所にてお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ会員証・認定状等が交付されます。

### 会費（年会費）

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

### 会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、御祈禱神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内申し上げ、参拝の方々には大祭特別祈禱神符及び御供物等が授与されます。
- 一、夏越大祓、年越大祓には御案内申し上げます。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員は昇殿参拝が許されます。

# 祭事案内

▼年越大祓 十二月三十日 午後三時

今年の下半期の間に、知らず知らずには受け犯した罪穢を祓い清める神事を行い、罪穢を託した人形(ひとがた)を忌み火にてお焚き上げいたします。



▼元旦祭 一月一日 午前〇時

新年を迎え国の隆昌と世界の平和又、氏子崇敬者の繁栄と幸福を祈り、元旦祭が斎行され、引き続き諸祈願の御祈禱を行います。

▼左義長 一月十五日 午前十時

昨年一年間、各ご家庭でお祀り頂いた御神札、お守り或いは正月の注連飾り等をお焚き上げ致します。

当日は左義長終了後も境内でお焚き上げを致しますので、ご家庭にある注連飾り等をご持参されても結構ですが、昨今の環境汚染で問題になっているダイオキシン等の発生を極力抑えたいと思いますので、ご面倒ではありませんが、有害物質の発生が予知出来る物は除外して頂きますようお願いいたします。

▼浄火祭 二月三日 午前十時  
皆様が奉納されました、帽子・絵馬又、御

祈禱を受けられた時に御神前に献つて頂いた金幣として御祈禱後にお渡しします紅白串をその年の厄男がお焚き上げして、心願成就を祈願するお祭りです。

お祭りが終了致しましたら、当日に限りご持参されました帽子などをお炊き上げ頂いても結構です。

▼祈年祭 二月二十一日 午後三時

▼御鞆神社例祭 三月十七日 午後三時

▼例大祭 四月二日 午後三時

年に一度の大祭です。前日の晩より氏子区域の子供達による大神様への打ち囃子の奉納から始まります。当日は早朝から境内に威勢のよい香具師の声が飛び交い、子供神輿の巡幸や境内の特設舞台では演芸が催され、終日賑わいをみせます。



▼南宮神社例祭 五月初旬 午後三時

▼お田植祭 六月十三日 午後三時

▼農休み祭 六月十三日 午後三時

権禰宜 谷口 哲也

## 厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳  
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈禱を受け毎日を平穩に過ごしましょう。

平成11年厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和34年	昭和33年	昭和32年
	25歳	昭和51年	昭和50年	昭和49年
女子	33歳	昭和43年	昭和42年	昭和41年
	19歳	昭和57年	昭和56年	昭和55年

▼本年度崇敬会よりの奉納

- 一、御首神社職 一對
- 一、末広稻荷神社職 十対

以上有難うございました。

## 御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一三八三の一  
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇